
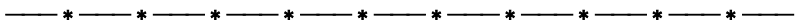




| | |
|--|---------|
|  Data | 2022-43 |
| 監督・脚本: ピエル・パオロ・パゾリーニ | |
| 出演: マリア・カラス/マッシモ・ジロッチェ/ロラン・テルジェフ/ジュゼッペ・ジェンティール | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

みどころ

ギリシャ悲劇は面白いものが多いが、エジプトの女王クレオパトラにも比すべき“王女メディア”の美貌と能力は？そして、その悲劇は？本作を象徴するシンボル（小道具）は、未開の国にある“金の羊皮”だが、その行方と権力闘争の展開は如何に？美しい砂漠の国を舞台に、美しい王女が悩み苦しむ姿をピエル・パオロ・パゾリーニ監督が印象的な音楽の中で演出していくギリシャ悲劇の展開と様式美をタップリと味わいたい。



■□歌姫マリア・カラスが出演！王女メディアとは？■□

一切の映画出演オファーを断り続けてきた歌姫マリア・カラスが、「この映画だけは断れない」とした、唯一の映画主演作が本作。ギリシャ悲劇は面白いものが多いが、私は寡聞にして『王女メディア』は知らなかった。

同作では“金の羊皮”がポイントになるが、スクリーン上ではその小道具をどう演出？また、本作では冒頭から王女メディアに扮するマリア・カラスのクローズアップが何度も登場するから、その“美女ぶり”を堪能することができるので、それをお楽しみに。もっとも、セリフがほとんどないから、ストーリーがわかりづらいのが難点・・・？

王位継承をめぐる権力闘争は、シェークスピアの『リア王』等でもテーマになっているが、そんな権力闘争は、ギリシャ悲劇にもあるらしい。『クレオパトラ』（63年）で観たところでは、クレオパトラが女王の権力を掌握するについては、弟との権力闘争とともに、シーザーやアントニーとの大恋愛（政略結婚？）があった。すると、王女メディアのその方面は如何に？

■□王位継承を巡る権力闘争は？ギリシャ悲劇風展開に注目■□

本作は、イオルコス国王の遺児イアソン（ジュゼッペ・ジェンティーレ）が、父の王位を奪った叔父ペリアスに王位返還を求めるについて、ペリアスから未開の国コルキスにある“金の羊皮”を手に入れることを条件に出され、旅に出るところから始まっていく。コルキス国王の娘メディアの心を射止めて金の羊皮の奪還に成功したイアソンは祖国に戻ったものの、約束を反故にされ、メディアと共に隣国のコリントスへ。しかし、そこで国王に見込まれたイアソンはメディアを裏切って国王の娘と婚約してしまうから、アレレ・・・。

『王女メディア』と題された本作は、そこから始まる王女メディアのイアソンへの復讐物語になっていくから、本作は本当に恐ろしいギリシャ悲劇だ。

■□■風景の美しさに注目！衣装と音楽にも！■□■

クレオパトラの国エジプトは砂漠の国だが、本作に登場する国コルキスやコリントスは、トルコのカッパドキア地区で撮影されたらしい。もっとも、そう言われても、トルコをはじめ中東やアフリカの国々は私には程遠い国。したがって、『十戒』（56年）や『アラビアのロレンス』（62年）等で観た砂漠の風景を思い出しながら、王女メディアが生きた時代の舞台を想像する他ない。若き日の西田敏行が主演した『敦煌』（88年）では、私が現実には旅行し、この目で確かめた敦煌の美しい風景が広がっていたが、本作ではトルコのカッパドキア地区の美しい砂漠の風景をスクリーン上に捉えるピエル・パオロ・パゾリーニ監督の演出に注目！また、本作のテーマとなる小道具“金の羊皮”へのこだわりや、俳優陣の服装へのこだわりもしっかり確認したい。

さらに、本作の大きなポイントは音楽。本作にはイラン、チベット、インド等世界各国の民族音楽が使用されているそうだが、日本の地唄や箏曲が多くのシーンで印象的に使われているので、それにも注目。もっとも、本作のそれはあまりにも複雑かつ難解なので、本作のパンフレットにある、前島秀国氏のコラム『『テオレマ』と『王女メディア』の音楽と、その意味するところ』の解説をしっかり読み込みたい。

■□■クレオパトラVSメディア。王女の最期は？■□■

エジプトの女王クレオパトラは、当初はシーザーと、シーザーの暗殺後はアントニーと組んでローマに対抗しようとしたが、結局オクタ비아ヌスとの決戦に敗れ、自殺してしまった。しかし、自分を裏切ってコリントス国王の娘と婚約してしまったイアソンへの復讐を誓ったメディアは、自分に備わっている神がかり的能力を総動員し、あらゆる権謀術策を展開していくので、それに注目！しかして、その成否は？

“異彩の映像詩人”パゾリーニが描く“女の復讐劇”をタップリ楽しみたい。

2022（令和4）年4月15日記